

2008年 23号



こうじん

題字 理事長 北川 宏

発行元

医療法人社団 宏仁会小川病院

〒355-0317 埼玉県比企郡小川町原川205

電話 0493-73-2750 FAX 0493-72-5192

発行者

理事長 北川 宏

発行日

平成20年11月1日



ヨーロッパ100選 世界遺産“ハルシュタット”
武野谷 撮影 2008.6.30

目次

- 第8回宏仁会合同研修会・公開市民講座…… 1～7
- 小林竜也先生就任挨拶…………… 8
- 宏仁会高坂醫院友の会、秋の旅行へ行って…… 9～10
- 日本スリーデーマーチ…………… 11
- 編集後記…………… 11

第8回 宏仁会合同研修会・公開市民講座プログラム

●日時：平成20年9月7日(日曜日) ●会場：国立女性教育会館 講堂

午前10時開場・午前10時30分開演・午後2時30分終了

午前の部：第8回 宏仁会合同研修会 午前10時30分～12時

司会：事務長 徳竹 勇

1. 開会挨拶

医療法人社団 宏仁会小川病院 理事長 北川 宏

2. 永年表彰

30年1名・25年1名・20年2名・10年17名 計21名

3. 永年表彰受賞者代表挨拶

菅原 武夫様 (宏仁会小川病院)

4. 患者代表によるお話

小川 康子様 (宏仁会高坂醫院)

5. パネルディスカッション

座長：北川 宏 (医療法人社団 宏仁会小川病院 理事長)

パネリスト：

吉田 哲 (宏仁会小川病院 院長)

演題 「過去一年間のポリソムノグラフィー (PSG)
検査結果からみた睡眠障害について」

石井 栄 (東松山宏仁クリニック 院長)

演題 「血圧について」

山田 裕一 (宏仁会高坂醫院 院長)

演題 「狭心症の発見と予防」

小林 竜也 (宏仁会小川病院 副院長)

演題 「透析患者の合併症について」



開会挨拶 北川理事長



パネリストの先生方

~~~~~ 昼 食 ~~~~~

午後の部：第8回 公開市民講座 午後1時30分～2時30分

1. 開会挨拶

医療法人社団 宏仁会小川病院 常務理事 大谷 百子

2. 特別講演

講師：毒虻 三太夫氏

テーマ…生放送で見たこと・聞いたこと 今、「心の時代に…」



講演中の毒蝮三太夫氏



第8回 宏仁会合同研修会・公開市民講座開催報告

宏仁会小川病院 事務長 徳 竹 勇

平成20年9月7日（日曜日）国立女性教育会館講堂で、今年で第8回となる宏仁会合同研修会・公開市民講座が、午前の部を「合同研修会」午後の部を「公開市民講座」と2部に分けて開催されました。開催日が近づくとつれ特に今年は当日の天候はどうであろうか、また、今年も多くの皆さま方にお出でいただけるだろうか…と心配しておりましたが、当日はすがすがしい初秋の空と、研修会には透析患者さま、ご家族を含め多くの皆様方にご出席いただき、この上もない喜びでいっぱいでした。

北川宏理事長の開会挨拶に始まり、透析暦10年、20年、25年、そして30年と長きに亘り透析をされながら健康管理に努め、社会復帰をされている方々の永年表彰で21名が受賞されました。次に受賞者を代表し菅原武夫さま（宏仁会小川病院）より心のこもった温かいご挨拶があり、続いて小川康子さま（宏仁会高坂醫院）より「患者さま代表のお話」と題し、透析導入に至るまでの経緯とそれに伴う家族との強い絆を、静かに通る声でお話しされる姿に強い感銘を受け、深く印象に残ったお話でした。

第一部研修会最後は「パネルディスカッション」、宏仁会3施設の院長と新たに宏仁会小川病院副院長に就任された小林竜也医師を含め4名による各専門分野での話とそれに関連した質疑応答が、座長北川宏理事長の司会の下に始まりました。



吉田院長



小林副院長



山田院長



石井院長

パネルディスカッション

座長：北川 宏（医療法人社団 宏仁会小川病院 理事長）

パネリスト：吉田 哲（宏仁会小川病院 院長）

演題 「過去一年間のポリソムノグラフィー（PSG）
検査結果からみた睡眠障害について」

石井 栄（東松山宏仁クリニック 院長）

演題 「血圧について」

山田 裕一（宏仁会高坂醫院 院長）

演題 「狭心症の発見と予防」

小林 竜也（宏仁会小川病院 副院長）

演題 「透析患者の合併症について」

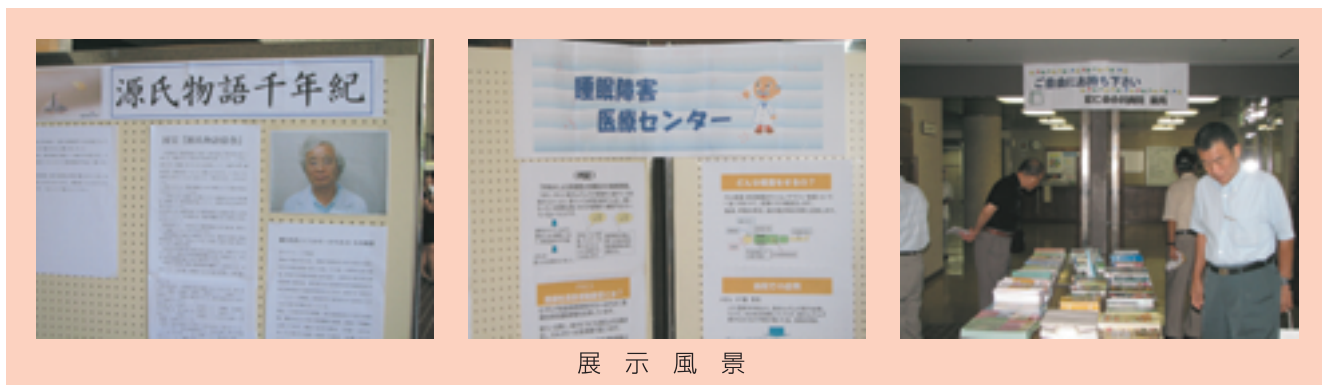


会場の皆様も各パネリストの演題を聞いただけで、それぞれご自身で知りたいと思っていたことが今日は聞けるのではないかと期待感の中で熱心に耳を傾けている雰囲気会場に伝わり、座長の間を見計らった説明と、会場から質問を誘導する流れ、それに答えるパネリストとの呼吸が合いパネルディスカッションの素晴らしい姿を今日のパネルディスカッションを通して感じました。出席された皆様も同様な感じを持たれたのではないかと思います。

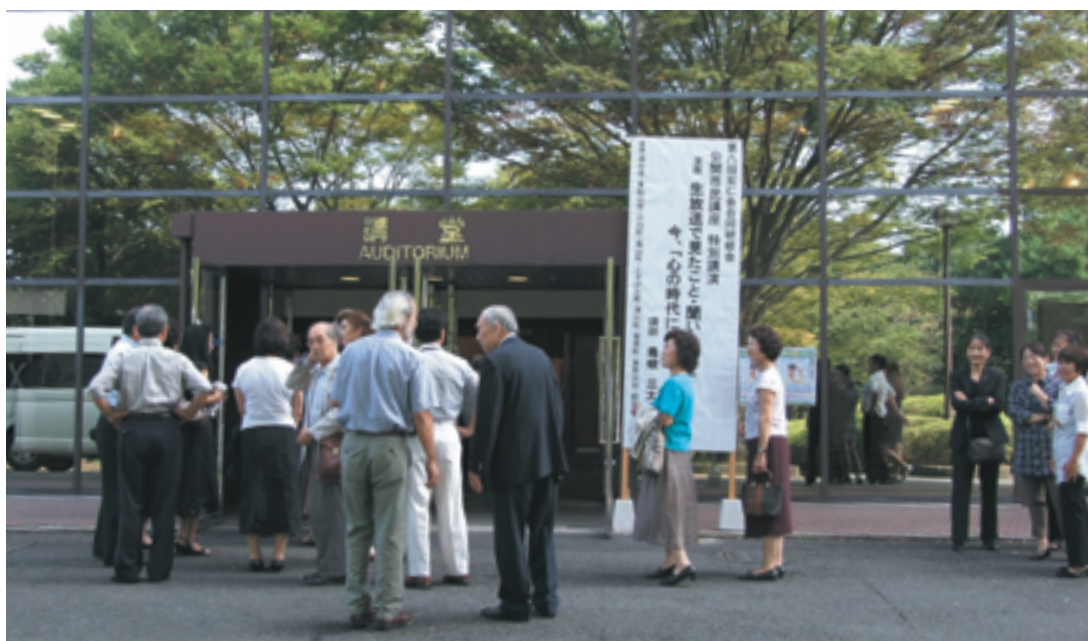
午後の「公開市民講座」には、講師にタレントとして活躍される一方、聖徳大学短期大学部客員教授もされ福祉にも造詣の深い「毒蝮三太夫氏」をお招きし、生放送で見たこと・聞いたこと 今、「心の時代に…」と題し講演をしていただきました。氏の39年に亘る長寿番組の生放送を通じて会得した人と人との心の触れ合い、また、今日の世相を毒舌を交えながら家族の在り方、真実を覗かせる話術に会場も笑いに包まれ、時にはしんみりとした空気が会場を包み、限られた時間が短く感じられた公開市民講座でした。参加された皆様方もきっと満足してお帰りになられたことと確信しております。

今年も公開市民講座開催に伴い近隣10市町村の後援を得てポスター、チラシ等の掲示を快く承諾下さいました地域の皆様方の協力により、凡そ520名もの方々が参加され盛況のうちに終了できたことはこの上ない喜びでした。

以 上



展 示 風 景



ステンドグラス 患者様作品



レザークラフト 患者様作品

永年表彰者挨拶

宏仁会小川病院 菅原 武夫 様

第8回3施設合同研修会、並びに公開市民講座の開催をお喜び申し上げます。又、この会を開催するにあたり、北川理事長始め各施設の院長先生、スタッフの皆様のご尽力に感謝申し上げます。

本日、研修会に於いて、透析永年表彰の授与式が挙行されました事に心から感謝し、表彰者を代表し僭越ではありますが一言ご挨拶申し上げます。

私事になりますが、昭和42年、24歳の時にネフローゼ症候群と診断され治療を受けていました。

28歳で結婚し、幸い3人の子供にも恵まれ、平凡な生活を送っておりましたが、34歳の時に右足の親指の根元が痛くなり、埼玉医大を受診しました。その時にお会いしたのが、以前、東松山宏仁クリニックで院長をしておられた吉川先生でした。痛風と診断され何度か通院していると、先生の診察を受けるまで2時間待ち、診察時間は10分程度のものでした。気の毒に思った吉川先生は、毎週木曜日に小川の宏仁会病院で診察をしているからと言い、小川病院を紹介して下さいました。そんな訳で、小川病院の外来に通院するようになり、身体の調子も、検査の結果もまずまずの状態過ぎて行きました。

数年後、先生が長期休暇となり、その後は、昨年まで高坂の宏仁クリニックで院長先生をされていた富田先生に週1回診て頂いておりました。しかし徐々に腎機能は悪化し、平成9年とうとう透析を開始することとなりました。

透析開始後は、度々のシャントトラブルや夜間急に胸が苦しくなるとは、救急搬送され、心臓カテーテル検査、バイパス手術等と色々な合併症を経験しました。時に、長期の休職に不安になることもありましたが、平成16年3月末日を以て、無事公務員としての勤務が終わり定年を迎えました。

定年後は病院に来る以外はのんびり過ごしておりましたが、平成19年動脈閉塞症の為足が痛く100mも歩く事ができなくなりました。このままでは壊死し、最悪は足を切断する事にもなりかねない病気と言われ、来る日も来る日も手術の事ばかり考えていました。そんな時、テレビで千葉の三角先生を知り、インターネットで調べた資料を手に、受診致しました。検査の結果、血管の石灰化が酷く手術には限界があるとの事でした。無念な気持ちをこらえ、翌年は川越医療センターの血管外科に出向きました。なんと、手術可能とのことで、今度は足のバイパス手術を受けることになりました。今はいくら歩いても痛みません。本当に嬉しさがこみあげて参ります。今日元気でいられるのは「家族」特に、家内の励ましがあつたお陰であると思います。これから先、又、何時どのような形で合併症が現れるか解りませんが、その都度最善を尽くしていき、又、孫・子にも私のような病気にならない様、機会ある毎に話していくつもりです。

今日、この会場で永年表彰を受けました事に感謝し、自己管理に努め、頑張っていきたいと思っております。最後に医療法人社団宏仁会3施設の発展を願いましてお礼の言葉と致します。

平成20年9月7日



患者様代表挨拶

研修会でのお話

宏仁会高坂醫院 小川 康子 様

私が糖尿病と人工透析になってからの事をお話したいと思います。

私は昭和45年、小学5年生の時に糖尿病と診断され、入院して食事とインシュリン注射の治療が始まりました。1ヶ月半程入院し、退院後は毎朝父に入院していた診療所まで送ってもらって、看護師さんにインシュリン注射を打ってもらってから小学校へ通っていました。自分で注射を打つ様になったのは中学生になってからでした。それからは毎日、自分で注射を打っています。

高校を卒業した昭和53年に就職して実家を出たのを機に、埼玉医大の糖尿病専門外来に通院する様になり、現在も月に一度のペースで通院しています。年々、医療の研究が進みインシュリンの種類も増え注射器や注射針も使い易くなりました。これはインシュリン注射を一日に何回も打つ私にとって、とてもうれしい事です。

24才で結婚。25才の昭和60年7月、この時は糖尿病の病棟に入院中でしたが、主治医の先生から「腎機能が落ちてきたのでそろそろ透析のためのシャントを作った方がいいでしょう。」と言われ、とてもショックで泣きながら夫に電話した事を思い出します。

しかし、病気は待ってくれずシャントを作る前の7月20日に透析導入となりました。透析を始めてから何日かした頃、原因ははっきりしませんが、体のあちこちが痛くなり、皮膚がつっぱりそれがポロポロむけ、顔も同じ様になり鏡で顔を見ようと思ったら母に「鏡で見ない方がいいよ」と言われ、その時の自分の顔は見えていません。髪も抜け地肌が見える程で食事も摂れず、自分では起き上がる事もできず、毎日夫と母が交代で看病してくれました。本当に家族には感謝の気持ちでいっぱいです。

先生方やスタッフの方に励まされ治療して頂いたお蔭で、翌年には退院し通院できるまでに回復しました。月日は過ぎ、住まいを飯能市から鳩山町に移し平成に入った頃、我家に犬がやって来ました。ポチと名付け15年間共に暮らし、散歩したり遊んだりして、一緒にいるだけで癒され、私は元気になりました。

平成3年6月、埼玉医大の透析室の先生の御紹介で高坂の宏仁クリニックに転院し、現在も宏仁会高坂醫院にお世話になっています。宏仁クリニックに来てからお友達もでき映画を観たり、食事をしたり、お花を見に行ったりして楽しんでいます。

今日までくる間にはいろいろありました。低血糖で意識を無くしたり、救急車のお世話になったり、入院したり、手術したり、家族には心配ばかりかけて来ました。二年前には自分の不注意で左足の脛骨・腓骨骨折で半年の入院生活をしました。この時も夫の協力と励ましや皆さんのあたたかい言葉に勇気づけられ頑張る事ができ、本当に感謝感謝です。そして、宏仁クリニックに戻れた時、とても安心したのと、うれしさでいっぱいでした。

友達のひとりに何事に対しても前向きでくよくよせず、今の自分を受け入れ明るく元気に頑張る人がいます。彼女の姿勢が大好きで、勇気と元気をもらって私も見習っていこうと思っています。楽しみを見つけ明るく元気にくらしたいと思います。今年も大好きな中村雅俊さんのコンサートに行く予定です。それには日々の生活が大事です。と口で言うのは簡単ですが日常には誘惑がいっぱいで負けてしまう事もありますが、今でも十分頑張っているのだから無理せず程々に頑張ろうと思います。

これからも山田院長先生をはじめスタッフの皆様にご迷惑をおかけすると思いますがご指導よろしくお願ひ致します。

最後に宏仁会のご発展と皆様のご健康とお幸せをお祈り致しまして私の話を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

平成20年9月7日





宏仁会小川病院 副院長就任挨拶

宏仁会小川病院 副院長 小林 竜也



9月1日より、埼玉医科大学腎臓内科より宏仁会小川病院に就任いたしました。医師になったその年より、大学からの非常勤医師として、小川病院を中心に3施設において透析回診・外来・当直等をさせて頂き、はや10年以上の月日が経過しております。北川理事長、鈴木洋通教授のお力添えにより、このたび非常勤医師として就任の運びとなりました。

私は埼玉医科大学を卒業後、同学腎臓内科の大学院（鈴木洋通教授）に入学し、大学病院での臨床研修後に埼玉医科大学・新潟大学医学部附属腎研究施設（構造病理学分野）・防衛医科大学において基礎研究（遺伝子解析や病理学が中心）をさせて頂き学位を取得しました。その後、大学関連病院・クリニックにおいて臨床経験を積ませて頂きました。これらの関連病院は浦和・川越・上尾というような都市圏にあったため、最先端の医療が施され、日々の臨床現場は緊張の連続で、精神的にも肉体的にも気の休まる事は殆どありませんでした。最新の研究を勉強し、たくさんの様々な臨床症例を経験し、それを患者さんに還元しようとしたのですが、患者さんは最新・最先端の医療よりも、必要最小限の身体負担での治療・症状の軽減・心のケアというごく簡素な事を求めており、ここにとても大きなギャップを感じておりました。ここで学んだことは、医師を含めた医療従事者は、まず患者さんとの信頼関係を築き患者さんのニーズに応える事が一番重要で、それこそが患者さんにとっての最善の治療だということです。

宏仁会ではこれらの経験を踏まえて、患者さんとその御家族には説明・理解・満足をモットーに全力を尽くしたいと考えております。これからも埼玉医科大学の全面的なバックアップの下、適切な医療を提供したいと思っております。

また、国の不安定な政治経済などの社会情勢による財政苦の中において、医は仁術であり忍術や算術ではないと皮肉られています。これからの医療情勢は非常に切迫しており綺麗事では済まされない一面もあります。患者さんに適切な医療を提供するためには、できるだけムリ・ムラ・ムダを省いて効率よく安定した仕事環境を作ることが不可欠で、27年間の宏仁会の歴史・経験を基盤にした上で、新たなシステムの再構築が必要と考えております。より良い環境を作り、より良い医療の提供ができるよう、3施設の院長やスタッフ皆さんの御協力の下、これまで以上に宏仁会のお役にたてるよう全力を尽くしたいと思っております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。





友の会 秋の旅行へ行って

宏仁会高坂醫院
友の会会長 川上春美

宏仁会高坂醫院友の会の秋の旅行として九月二十八日の日曜日に山梨へぶどう狩りに行ってきました。院長先生はじめスタッフを入れて総勢二十二名と若干少なめでしたが、その分バスの中は、和気あいあいでした。そしてようやく勝沼のぶどう園に着き早速皆でぶどう狩りを楽しみました。やっぱり美味しいですねー、採ってすぐ食べるというのは、皆も美味しそうに食べていました。

そして昼食はもちろん山梨名物の“ほうとう”で実にこれも大変美味しかったです。昼食を挟んでぶどうの丘とハーブ園にも行き、そして帰りは定番の談合坂SAに寄ってお土産を買って帰路に着きました。

その日一日事故もなく皆さん大変お疲れ様でした。又スタッフの皆さんどうもありがとうございました。







日本スリーデーマーチ



毎年11月、比企丘陵を舞台に繰り広げられる「ウォーキング」の祭典、日本スリーデーマーチは、今年で第31回を迎え、いまや歩けのメッカ、オランダのフォーデーズマーチに次ぎ、世界で2番目の規模を誇る大会となりました。豊かな自然の中に設定された各コースにはボランティアの人々による湯茶の接待や手作りの味噌汁等もあり、歓迎ムードいっぱいです。

11月1日から3日間、東松山市はスリーデーマーチ一色に染まり、日本各地のみならず、世界各地からの多くの人々であふれかえります。宏仁会「歩こう会」も今年で7回目の参加となります。毎年、それぞれが自分のペースで楽しみながら歩き、秋の一日を満喫しています。



森林公園ルート



武蔵嵐山ルート



千年谷公園ルート



編集後記

美しい星・地球…しかし今その地球が危ない。
二酸化炭素の増加で地球温暖化が問題となり、北極・南極の氷は、どんどん溶け小さくなり、北極熊の絶滅の危機、海面上昇、又異常気象と、もう後戻り出来ない状況まで来ていると言われています。

これは、ほとんど人間による二酸化炭素の排出による影響でしょう。でも人間は便利な生活をどんどん求めて、人間の生活も後戻り出来ない。
でもなにかしなくては。



私は“もったいない”で物を大切に使う様にしています。
未だ使える物は棄てない。これで生産を少しでも減らす事が出来ます。

皆さんも何かやっていますか、やりましょう。
この美しい星地球を、少しでも守るために！

宏仁会高坂醫院 Y・K